

前立腺がんの検査は受けたほうがいいの？

川口市立医療センター 泌尿器科 一瀬 岳人



前立腺がんは、男性のがんの中で4番目に多いがんです。進行は比較的ゆっくりなため、死亡する数はやや少なく、6番目となっています。ただし、70歳以上のかたではその割合が増加してきており、高齢化が進んできている日本では、今後も増加が予想されています。

前立腺がんの検査は、血液検査で血清PSA値という腫瘍マーカーを測定する方法が主に行われています。数多くの地方自治体でPSA値を測定する前立腺がん検診(以後PSA検診)が実施されています。しかし、以前厚生労働省がPSA検診を推奨しない方針を報告したこともあり、検診を受ける患者さんの数は海外に比較して少ないのが現状です。厚生労働省の報告以降に発表されたヨーロッパで実施されたPSA検診の有効性についての研究では、前立腺がんの死亡率を減少させる結果が示されています。私は川口市立医療センターに赴任して以来、骨などに転移を伴った前立腺がんの患者さんを数多く診てきました。転移性前立腺がんでは完治は難しくなります。やはり早期がんでの発見が望まれます。このことから、PSA値の測定を50歳以上の男性のかたには1度は受けて頂くことをお勧めします。

川口市ではPSA検診が実施されていないため、健診や人間ドックの際に、追加検査を希望して実費(2,000~3,000円)を払っての測定になります。普通に診療所や病院を受診して保険診療で検査を希望しても測定はできませんのでご注意ください。

大切なあなたの命は宝物 ~3月は自殺対策強化月間です~

●自殺者数の現状

平成29年の川口市の自殺者数は99人で、自殺死亡率は人口10万人あたり16.6人でした。なお、全国の自殺死亡率は16.5人、埼玉県は15.9人でした。

●悩みを抱えた人には？

身近な人(ゲートキーパー)が悩んでいる人に気付き、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげていきましょう。

ゲートキーパーの役割

- 気付き** 眠れていない、口数が少なくなったなど、家族や仲間の変化に気付く。
- 声かけ** 悩んでいる人への声かけの仕方に迷ったら…「どうしたの?」「何か悩んでいるの?」と声を掛ける。
- 傾聴** 本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。心配していることを伝え、真剣な態度で聞く。
- つなぎ** 早めに専門家に相談するよう促す。
- 見守り** 温かく寄り添いながら、じっくりと見守る。

●日頃からできるメンタルチェック

パソコンや携帯電話から、いつでも気軽にストレスチェックができる「こころの体温計」を実施しています。平成29年度は21,964人のかたが利用しています。特に春先や秋にかけて利用者が増加しているので、悩みが大きくなる前に自分や周りの「こころの健康管理」に役立ててください。

パソコンはこちらから
→<https://fishbowlindex.jp/kawaguchi/>



携帯・スマートフォンはこちらから

イベントスケジュール

6日(水)~10日(日) →27ページ 3月
GI開設67周年記念グランプリレース
場川口オートレース場

9日(土) →12ページ
第12回階段駆け上げがりレース(ステアレース)川口大会
場キューボ・ラ広場、リリアほか

21日(祝) 5/12日(日) →21ページ
春の企画展<絵画展...なのか?>
場アートギャラリー・アトリア

13日(土)・14日(日) 4月
第87回春の安行花植木まつり
場川口緑化センターほか

16日(火) 5/12日(日)
旧田中家住宅の端午の節供 五月人形の展示公開
場旧田中家住宅

29日(祝)
第32回グリーンロード・ウォーキング
場戸塚安行駅前広場



さらなる高みへ、登り続ける

2018年日本人最高位

ほんま 本間 大晴さん
川口6

ロープで安全を確保しながら、傾斜のついた壁を自らの体のみで登っていく競技、リードクライミング。ゴール地点の高度は4階建てビル相当の10数mに達する。「もちろん怖さはありますが、登り切った時の達成感が最高なんです」と競技の魅力を教えてくれた。

小学2年生のころ、父親と市内のクライミングジムで5m程の壁を登るボルダリングを体験。高学年になると大人たちと交じり、より持久力や戦略性を問われるリードクライミングに取り組むように。「周りの人たちに負けたくないという気持ちと楽しさが半々で、毎日のように登っていました」と懐かしむ。



2017年には全年齢を対象とした「リード・ジャパンカップ」で優勝。翌年の「日本選手権」で4位が認められ、世界を転戦し全7試合で開催される「IFSCクライミング・ワールドカップ」への派遣が決定した。初参戦にも関わらず好調を維持し、中国で行われた最終戦では5位となるなど、日本人男子最高位となる年間ランキング7位でシーズンを終えた。「できすぎたシーズンだったと思いますが、満足はしていません。次の目標はワールドカップで表彰台に立つて、競技最高峰の世界選手権に出場することです」。今年8月、初めて日本で行われる大舞台。若き挑戦者は頂点を目指して上り続ける。(注)